

『子どもを育てる地域活動として』 — 部活動地域移行と育成会活動は —

須恵町の部活動地域移行と育成会活動の現状について、所管する学校教育課および社会教育課と、意見交換を行ないました。

◆部活動地域移行

専門性を持つ外部指導者による、日曜日の部活指導(部活動地域移行)ですが、令和6年度より太鼓・陸上・剣道の3部を、部活動地域移行のモデル事業として開始していました。

令和7年度より国が示す今後の方向性として、部活動地域移行から部活動地域展開へと名称変更されましたので、須恵町の考え方について説明を受けました。部活動地域移行は、まずは部活動改革として考えていくとし、日曜日の部活動を、地域とともに生徒を育てる場として位置づけ、持続可能な運営体制を構築し、生徒に多様な選択肢を提供し続けていきたいとの考えでした。須恵町では令和8年度中に、原則休日の部活動の地域移行を目指すというものでした。



地域とともに生徒を育てる場の位置づけとなる「部活動外部指導」

◆育成会活動

活動における問題について、今後の方向性などの説明を受けました。子ども会加入者の減少、育成会役員の担い手不足、参加者の減少、行事数などの問題は多く、今後は、子育連組織の見直しや、行事の精選のための検証を行ない、子ども会活動の質を向上させていきたいとのことでした。各小校区のコミュニティと連携し、子ども会加入者の減少をおさえるためにも、加入未加入関わらず、町内全ての子どもが経験できる行事を現在検討しています。



子ども会や地域活動のリーダーとなるための「インリーダー研修」で粕屋南部消防署に行きました

今後の課題

部活動地域移行については、学校の7割が専門外で対応(部活顧問)しているので、今後外部指導者との考え方のすり合わせや、持続可能な運営体制を充実させ、整えていく必要が重要だと考えます。

議会の視点

部活動の地域移行では、少子化による中学校の生徒数減少、運動部活動の入部率低下により、存続できない部活動が増加しているのが現状です。休日の部活指導は教員の業務負担が大きく、その負担を軽減できると感じました。

育成会活動については、少子化などで子ども会の加入も減少しています。議会も、各小校区のコミュニティ・各子育連などと一緒になって、解決・改善策を模索検討していきたいと思います。

育成会活動では、今後の方向性、今やるべき事を明確にして推進していただきたいと思います。議会も、今後の取り組みについては、出来ることをしっかりサポートしていきたいと思います。

「地域活性につながるか」 — 須恵町のふるさと納税は —

須恵町のふるさと納税の現状と課題について、所管するふるさと応援課と意見交換を行ないました。

◆ふるさと納税について

平成20年に始まった制度です。ふるさと(地方)で育った人が、進学就職で都会へ行って納税者になる～ありがたいパターンですが、ふるさとの自治体の教育・医療・福祉などのサービス(自治体持ちです)を受けて育ち、地元で納税者とならずに都会で納税するのでは、地域間の格差が拡大するばかりです。

そこで、全国からの寄附を通じてふるさとへの支援を募ることで、自治体への支援、その地の生産者・事業者や地域の活性化を図り、地域間格差を解消するねらいがあります。

◆手続きは

ふるさと納税を希望する方は、それぞれの年収に応じて税額控除の上限額が決まっています。支援したい自治体を選んで寄附すると書類と返礼品が届けられます。そ

◆須恵町の実績は

年度別の寄附金額は、

平成29年	2629万円
平成30年	5500万円
令和1年	2348万円
令和2年	8億7564万円
令和3年	5億7887万円
令和4年	7億2197万円
令和5年	5億3153万円
令和6年	7億716万円



様々なシティープロモーション活動(大相撲懸賞幕を出しました)

寄附金額の約50%が町の財源となります。

の後、控除申告の手続きをすると、確定申告のときに、寄附金額に応じて税金が控除されます。(ワンストップ特例もあります)

今後の課題

魅力ある返礼品を発掘し続けることが大変です。大きな課題は、国の制度・法規制が毎年のように変わり、そのたびに対応が迫られ膨大な労力を必要とします。全国の

自治体間でふるさと納税熱が過熱し、激しい競争になっているのが原因ですが、当初の精神からは相当それているようです。

議会の視点

学んだことは、制度上、寄附はいただくだけではなく流出もあることです。流出が増大すると、その分稼がなくてはならず、体力のない自治体は過重な負担となります。制度そのものの是非を考えなくてはなりません。

須恵町も、令和2年以降は積極的に取り組むようになりましたが、返礼品だけで須恵町の魅力が語れるかというところではなく、割り切って応援すべきだと感じています。議会としても今後の推移を注視していきたいと思います。

須恵町消防団を激励



須恵町消防団 村山団長および副団長へ激励の挨拶を行ないました

消防用機械器具の取り扱いや操作の技術を競う操法大会に向け、訓練に励む須恵町消防団の激励に伺いました。

6月22日(日)に行われる大会は、本町のみで、県および全国大会の開催はありません。

しかし、各消防団の方々は、一日の仕事を終えた後にも関わらず、操作の手順や機敏な行動と、連日一丸となって訓練に励んでいました。

町民の生命と財産を守るという使命感は、こうした日々の努力に裏付けられていることを強く感じました。また、日頃の活動に対し、ご理解、ご協力いただいているご家族の方に、改めて感謝を申し上げます。